

コード No.21-S-013

提出日：令和 4 年 4 月 28 日

令和 3 年度「地域復興支援・地場産業発展支援事業」報告書

認定 NPO 法人 国際地雷処理・地域復興支援の会
理事長 高山 良二

1. プログラムの目的

当会 (IMCCD) は 2011 年 8 月よりカンボジア地雷対策センター (CMAC) との共同事業協定に基づき、地元住民 5 名を地雷除去員として訓練し、プノンペン約 450 キロ北西、タイ国境に接する、「地雷ベルト地帯」と称されるエリア、バットアンバン州カムリエン郡タサエンコミュニティにおいて地雷・不発弾の住民参加型処理活動を始め、2022 年 3 月末までに面積 292 ヘクタール (東京ドーム約 62 個分) の土地を安全にしました。

カンボジアでは 1970 年代から 1990 年代にかけて激しい内戦が繰り広げられ、IMCCD の活動地はポルポト軍最後の激戦地となった地域で、今なお地雷や不発弾が数多く残り、負の遺産として農村部の復興を妨げています。

地雷・不発弾を処理し、安全にした畑で育つ様々な農産物は価格が不安定なため安定収入に繋がっておらず、どれも村人の生活を豊かにする農業には結びついていないのが現状です。

そのため、IMCCD では地雷・不発弾処理だけではなく、カンボジア人自らの自立復興を目的とし、農業の発展支援・地場産業発展支援にも力を注いできました。地元カンボジア人の協力によって生まれた会社『クマエ蒸留』に委託し、収益が期待できる農産物を無農薬製品として登録できるように試験栽培を行っています。これらが順調に進めば村人にも栽培方法などを指導し地域に普及させる予定です。また、収穫された農産物の加工も同社に委託し、蒸留酒類、ドライフルーツ類、お茶、漢方類、精油類の製品化に取り組んでいます。加工製品は主にプノンペン、シェムリアップ、シアヌークビルの各空港、T ギャラリー、免税デパート、観光地のマーケット等で販売しておりましたが、今回の新型コロナウイルスの流行の影響で、売り上げが 80% も落ち込み、『クマエ蒸留』の運営資金が自力では調達できなくなりました。『クマエ蒸留』での取り組みは地元住民による自立を目指すために IMCCD が支援している重要な事業であり、なんとかこの「地域復興支援・地場産業発展支援事業」の継続と事業に携わる人材の雇用を守るべく貴財団の新型コロナ「緊急助成」プログラムに応募致しました。

2. 主な活動内容・スケジュール（令和3年11月1日～令和4年3月31日）

当会が農業発展支援・地場産業発展支援事業を委託している会社『クマエ蒸留』では、地雷処理後、安全化した約10ヘクタールの畑でバナナ、モリンガ、シトロネラ、レモングラス、サトウキビなどを無農薬で栽培しています。

収穫した農産物はドライフルーツ類、お茶、漢方類、お酒、精油などに加工し、付加価値を高めた製品化を目指して取り組んでいます。



2021年11月 バナナ畑の除草作業



2021年12月 今期は質の良いジャスミン米が豊作で、住民から買い取り、焼酎を醸造しています。



2021年12月 モリンガの植え付け作業
約4ヵ月後に収穫し、お茶に加工します。



2021年12月 シトロネラの花を収穫し
お茶に加工します。



2022年3月 サトウキビの収穫作業
3月から5月にかけてラム酒を製造します。

3. 助成を受けた活動の報告



『クマエ蒸留』の取り組みは、地元でも大変期待を寄せられており、バタンバン州のSOKLOU知事（写真：右側）が同社を視察に来られ、HONG SOKMEAN社長（写真：左側）がソラークマエ製品などを紹介し説明を行いました。（2021年12月20日）



- ・3年前に植えたアボカドの木（写真：左 2022年3月17日撮影）が順調に成長しています。
- ・もうすぐ、マンゴー（写真：右 2022年3月17日撮影）の最盛期になります。収穫されたマンゴーの果実はドライフルーツやお酒に加工します。
- ・12月に植えたモリンガは順調に育ち、もうすぐ収穫期を迎え、お茶などに加工します。
- ・シトロネラの花のお茶はプノンペンの販売特約店から定期的に注文が入るようになりました。
- ・カンボジア商務省が運営するNET通販のサイト CANBODIA TRADE に製品を出品して売上の向上を目指しています。（<https://cambodiatrade.com/home-page/view-page/about-cambodiatrade>）

（2022年3月31日）

4. 活動の成果

以下、収穫した農産物を加工した製品の一部をご紹介します。 画像提供：『クマエ蒸留』



ドライバナナ



ジャックフルーツラム酒



シトロネラのお茶とエッセンシャルオイル

5. 今後の課題

- ・製品の付加価値を高めるための、加工技術等の向上を図るとともに、信頼できる特約店や輸出入業者の選定を行い、販路の拡大を目指します。